

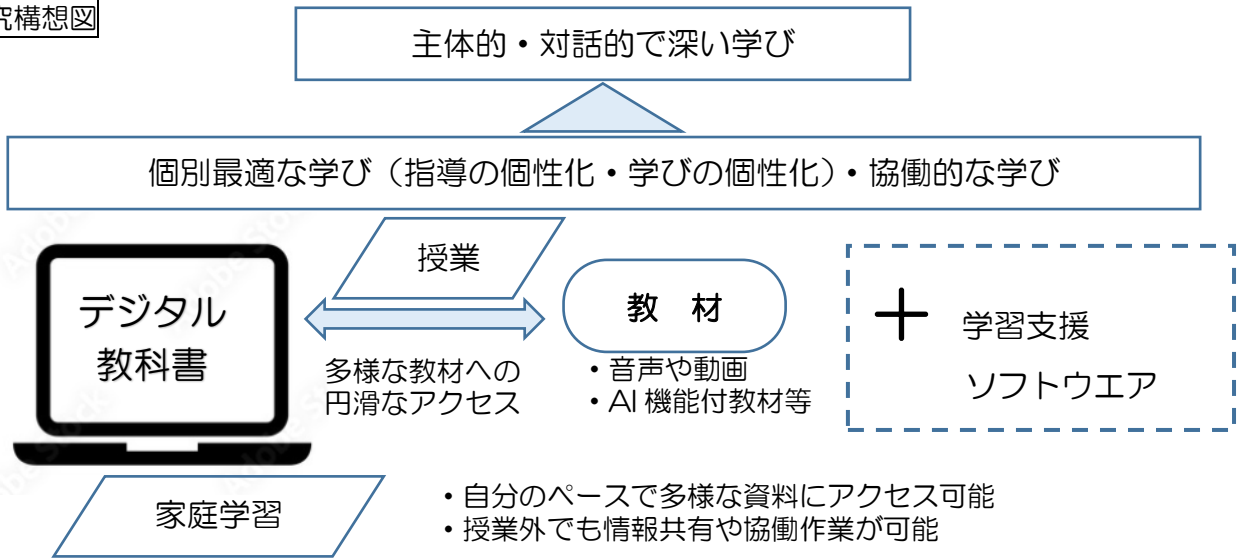
令和4年度・5年度九度山町研究指定

デジタル教科書の有効活用につなげるための一人一台端末の活用研究

九度山町立九度山中学校

研究テーマ 『主体的に学び高め合う生徒の育成』～デジタル教科書で学び～

研究構想図



組織 (令和4年度)

総括 校長 研究のアウトライン 委員会との連絡 渉外関係

総務 教頭 各担当へのアドバイス&ヘルプ

研究 研究計画 南垣内 研究授業等の計画及び研究の記録

デジタル教科書推進 数学 藤田 佐藤 英語 中谷 平井 社会 新川

環境 セキュリティー・環境整備 井上 田岡 情報リテラシー・情報モラル 増井 市川 玉井

アドバイザー 南垣内 智宏 教授 (和歌山大学教育学部教職大学院)

令和4年度の取り組み

○現職教育 令和4年8月10日(水)

講義 「学習者用デジタル教科書について」

- ・デジタル教科書とは
- ・デジタル教科書のメリット・デメリット 他

講師 和歌山大学教職大学院 教授 南垣内 智宏 氏

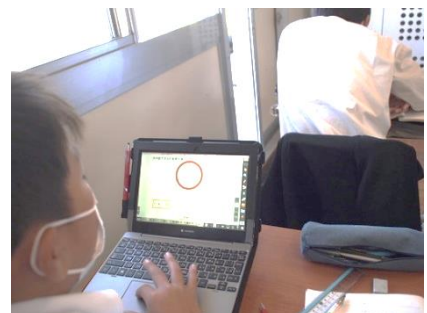
○研究授業・研究協議 令和4年10月26日(水)

第1学年A組 授業者 藤田 善行 教諭

教科・単元 数学科「比例」

指導講評

和歌山大学教職大学院 教授 南垣内 智宏 氏



成果と課題

GIGA 端末が整備されることにより、教育活動全般にわたり活用する場面が増えてきた。特に教科の指導ではデジタル教科書を使用しない教科でも活用の場面が増えている。本校の研究では、デジタル教科書活用のメインの教科として数学科を指定し、数学科での有効的な活用を他の教科・領域にも広げ、個別最適な学び・協働的な学びをとおして、「主体的に学び高め合う生徒の育成」を目指した。さて、研究初年度は、南垣内教授のアドバイスもあり、授業の全てでデジタル教科書を利用するのではなく、使いやすいところから使用し、徐々に広げていくことにした。つまり、指導者は授業中での生徒の有効的な学びのため、デジタル教科書を使用する基準として、デジタル教科書のメリットを最大限に活かすことも考えながら、次の①～⑤（①デジタル教科書でしかできない ②デジタル教科書を使った方がいい ③どっちを使ってもいい ④紙の教科書を使った方がいい ⑤紙の教科書でしかできない）のどれであるのかを判断する必要がある。したがって、指導方法の幅が広がり指導の個性化・学びの個性化にはメリットとなった。しかし、今まで紙の教科書で指導しその研修を積んでいるベテラン教員には、上の①や②につながる活用・指導になりにくいように思われる。また、協働的な学びへつなげていくことの技術面でのハードルの高さや、ネットにつながりにくい等端末のハード面などの課題もある。さらに、来年度はデジタル教科書が使用できる教科が少なくなることで、実質的に数学科担当教員への負担が増加しないか懸念する。

来年度へのポイント

- 研究テーマの確認 来年度の研究テーマに合わせて修正が必要
※デジタル教科書使用をどこまで広げるのか等の協議も必要
- 研究発表の骨子
組織や発表会の担当、アドバイザーの選定等、人事異動に合わせて修正が必要
※数学科担当教員だけに負担がかからないよう
日程等の決定（案内等も）



令和5年3月13日

校長 前田 南海男